

活動報告書

報告者氏名:山田綾子、黒瀧淳子 所属:青森県立浪岡養護学校 記録日:2013年2月4日

活動内容タイトル:「買い物学習への活用」

活動内容の概要

要求行動が少ない児童に、好きなお菓子や飲み物を指導者に iPod touch で要求するための指導を行った。結果、目の前にそれがない状況でも、「ほしい」と要求できる場面がみられた。また同児童に対し、買い物時に「〇〇 ください」、「ありがとうございました」という要求行動を形成する指導を行った。結果、店員に iPod touch で要求することができた。

【対象児の情報】

- ・ 学年
小学部6年の男児1名
- ・ 障害名
精神発達遅滞、9番染色体異常
- ・ 障害の困難と内容
要求は音声で発信するが、発音がはっきりせず、聞き取れないことが多い。
指さしによる要求は可能。
日常生活に必要な、簡単な名詞や動詞は理解している。

【活動目的】

- ・ 当初のねらい
指導1 食べたいお菓子や飲み物を、指導者に iPod touch で「〇〇 ほしい」と要求する。
指導2 買い物時、店員に iPod touch で「〇〇 ください」、「ありがとうございました」と伝えることができる。
- ・ 実施期間
指導1 6月に事前指導2時間を自立活動で実施、7月の修学旅行時に評価
指導2 8～9月に事前指導4時間を生活単元学習で実施、9月の買い物学習時に評価
- ・ 実施者
山田綾子、黒瀧淳子
- ・ 実施者と対象児の関係
学級担任

【活動内容と対象児の変化】

指導1 [対象児の事前の状況]

- ・ 目の前に食べたいお菓子や飲み物がない状況では、要求行動はみられなかった。

[対象児の事後の変化]

- ・ 修学旅行でタクシーでの移動時、コンビニを見て、「チョコレート ほしい」、「コーラ ほしい」と、iPod touch で要求することができた。

指導 2 [対象児の事前の状況]

- ・欲しいものを店員に伝えることができず、いろいろなものを指さしする。

[対象児の事後の変化]

- ・店員に「アイスクリーム ください」、「ありがとうございました」と、iPod touch でコミュニケーションをとることができた。

・活動の具体的内容

アプリケーション「絵カード・コミュニケーション」を使用。絵カードを並べて文章を作り、相手に見せることで要求を伝えることができる。また、音声再生も可能なため、VOCAとして使用することもできる。アプリにはほとんど絵カードが入っていないため、Droplet Projectが開発した絵記号ライブラリ「Drops」のカードを使用。



図1 指導1で使用した画面

指導 1

事前指導 2 時間で、アプリケーションの使用方法を学習した。(1)欲しい対象を選択、(2)「ほしい」カードを選択、(3)音声出力の3ステップが完了した時点で、要求した物が手に入ることを学習した。その後、1泊2日の修学旅行時、タクシーでの移動中にコンビニを見て、「チョコレート ほしい」、「コーラ ほしい」と、iPod touch で要求することができた (図1 参照)。



図2 指導2で使用した画面

指導 2

事前指導 4 時間の中で、ショーウィンドウの中に商品があり、店員とのやりとりが必要な買い物場面で、(1)欲しい対象を選択、(2)「ください」カードを選択、(3)店員に向け音声出力の3ステップを学習した。その後、駅構内にあるアイスクリーム屋で買い物をしたところ、はじめは指さしをしていたが、促されると iPod touch を使用し、要求を店員に伝えることができた (図2 参照)。

【報告者の気づきとエビデンス】

本児は目の前に欲しいものがあるときには、指導者の「欲しいときはどうするの?」という言葉掛けを受けて、「ちょうだい」と言いながら両手のひらを上に向けるジェスチャーをすることができる。一方、欲しいものが目の前にないときには、要求行動は見られなかった。そこで、自分から人に「〇〇ほしい」「〇〇ちょうだい」と伝えることができるようになってほしいと考え、iPod touch アプリ「絵カード・コミュニケーション」を活用した。少ない指導回数で使用方法を覚え、修学旅行時の欲しいものが目の前にない場面で、進んで要求を伝えることができたことは驚きであった。一方、買い物場面における指導は、目の前に商品があり、指差しでも十分に伝わるため、場面設定としては不十分であった。

要求言語は内言としてあるが、要求を人に伝えることができない児童の要求行動を引き出すために、iPod touch アプリ「絵カード・コミュニケーション」は有効であった。